

## 巻頭言

## 「数学は全ての科学技術の発展に不可欠」

数学会会長 久保木 孝雄

令和4年度6月に実施されました数学会総会におきまして、佐藤啓之先生の後任として第29代部会長を務めることになりました千葉県立千城台高等学校長の久保木孝雄です。微力ではありますが、千葉県高等学校数学教育の発展に向け、誠心誠意務める所存ですので、御支援・御協力をお願いいたします。

令和2年3月から続く新型コロナウイルス感染症の影響により、数学会においてもいくつかの総会や行事等が中止や形を変えての実施となりました。3年ぶりとなりました令和4年度の総会並びに春季研究大会は、6月17日（金）に県立四街道北高等学校で開催し、会場校の先生方には第2時限を授業公開していただきました。総会では令和3年度事業報告、収支決算報告、監査報告、令和4年度事業計画案審議、予算案審議の後、令和4年度地区委員、部会長・会計監査推薦、その他の役員委嘱等を行うことができました。研究発表では、県立市原高等学校の山田悠介先生による「令和4年度大学入学共通テスト（数学）のアンケート調査結果について」の発表がありました。講演では、名城大学教授の竹内英人先生による「思考力・判断力・表現力を高める指導について～難化する共通テストに向けて我々は授業をどう変えていく必要があるのか～」という題で御講演をいただき、2時間にわたる熱弁でしたが、あっという間に過ぎてしまい、大変有意義なお話をしていただきました。さらに、見学研修会は、2年前から国際医療福祉大学成田キャンパスでの見学等を予定していましたが、コロナ禍でずっと延期しておりました。こちらも、8月23日に開催することができ、日頃とは異なった環境で大学教授や研究員等からいろいろ御教授いただき、幅広い観点から数学を捉える機会となりました。改めて大学の御厚意に感謝申し上げます。

この他、例年7月に県教育委員会との共催で開催されています高等学校教育課程研究協議会（数学）も、7月29日（金）に千葉県総合教育センター大ホールにおいて3年ぶりに対面形式で開催することができました。現在の第1学年から実施されている観点別評価に関する情報交換や、評価規準の作成などについてグループ協議し、それをformsに入力し、集計結果や意見を紹介するなど、有益な研究協議会となりました。参加された先生方が勤務校の先生方に確実に伝えていただき、生徒の学習改善や教員の指導改善につながることを願っています。

文部科学省は、人工知能（AI）やビックデータなどの活用が急速に広がり、画像処理や暗号技術、金融など数学の知識が求められる場面が増えていて、社会が抱える課題解決に数学人材を活用する方向で検討しているようです。また、米英などでは、「数学は全ての科学技術の発展に不可欠」として、研究所の設立や投資などが活発化しているようです。今後とも私たち数学教育に携わる者は、生徒が将来の社会生活に適応し成功するためにも、ソーシャルスキルはもちろんのこと、それに加えて批判的な考え方、複雑な問題を分析して解決する能力、創造性と革新性、このような力を習得させられるよう考えていかなければなりません。

本年度入学生からスタートした新教育課程のもと、本部会では次代に必要な資質・能力を育むための教育をいち早く研究し、先生方の参考になる取組を積極的に行って参ります。この $\alpha$ - $\omega$ を活用し、広く数学教育関係者と様々な情報を共有することで、より格調高い内容に充実させていきたいと考えております。本県高等学校数学教育の一層の発展と数学を指導される先生方の益々の御活躍を心より祈念しております。